

は じ め に

福岡市保健環境研究所が平成 9 年 5 月に本市の保健及び環境に関する中核的な調査研究施設として開所して 7 年が経過しました。その間、平成 12 年度の廃棄物試験研究センターの編入や平成 15 年度の企画調整課の新設等組織を拡大しながら、保健・環境・廃棄物に関する総合的技術的な研究機関として拡充整備してまいりました。

平成 15 年度は、昨年度発足させた博多湾再生研究会やエコ処理研究会の継続実施による調査研究の推進や、干潟環境の保全を目的として干潟の底生生物の調査を実施、また、保健環境学習室「まもる一む福岡」の展示のリニューアル、自動車騒音監視計画の指導・助言を受けるため、自動車騒音監視計画検討委員会を設置するなど、調査研究のみでなく環境行政全般にわたって事業を展開してまいりました。

また、平成 13 年度から 3 ヶ年計画で厚生労働科学研究事業として、「健康危機発生時における保健所等行政機関及び県域 3 地研間の連携体制の構築に関する検討」を実施し、平成 15 年度末には、研究所の健康危機管理体制の整備が一通り終了しました。SARS ウイルス、高病原性トリインフルエンザウイルス、ウエストナイルウイルスなど、これまでに経験したことのない病原体の侵入が危惧されますが、今後も、高度な検査に対応できるよう、さらに検査技術の研鑽を図り健康危機管理体制を充実させていくことが研究所の使命と考えます。

こうした福岡市保健環境研究所の成果をまとめた平成 15 年度所報ができあがりました。皆様の研究の一助となれば幸いです。

なお、福岡市保健環境研究所は、ホームページでも情報発信に努めておりますので、こちらの方もご活用いただければと思います。

平成 16 年 9 月

福岡市保健環境研究所

所長 植木 光治